

あたって ご挨拶



東通村長
畑 中 稔 朗

新年明けましておめでとございます。令和4年の新春にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

村民の皆様には、平素から村政の各般にわたり格別のご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

昨年4月の村長就任後初めての新年を村民の皆様と迎えられることを、心から嬉しく思うと同時に、その責任の重さを実感しております。

村民の皆様には、一昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスクの着用や手洗い消毒など、基本的な感染防止策を続けて頂いており、そのご協力に対し、改めて感謝申し上げます。

また昨年は、各地区での円卓会議にたくさんのご参加を頂きました。

昨年5月からの石上地区を皮切りに、10月のひとみの里地区まで、全30地区、28回開催し、合計で448人の村民の方々にご参加いただき、道路に関することや、生活全般に関わることなど、様々な貴重なご意見を頂きました。

さらに、村内の企業や事業所に勤務する、若者や子育て世代などを対象とした円卓会議も開催し、「こちらも様々なご提案を頂いており、実現に向けて努力して参ります。

この円卓会議は、村民の皆様から直接ご意見を伺うことができる、私が最も大切にしている施策でありますので、来年度以降も継続して、皆様に住む地区へお邪魔致します。

そして昨年は東通中学校の「協力のもと」「中学生議会」を開催致しました。

中学生の視点からの村政、行政への提案に

は、驚いたと同時に、村の将来を担う子供たちの頼もしい姿に感動すら覚えました。

今後は中学生だけでなく、小学生の意見を聴く機会も設けながら、子どもたちの無限の可能性を見出すとともに、貴重なご意見を確実に村政に反映して参りたいと考えております。

ところで、昨年の我が村の第一次産業は、農業は「水稲」が天候に恵まれ、平年並みの収穫となり、畑作の「そば・大豆」も良好な生育から、収穫量は平年を上回っております。

ただ、漁業においては、村の主力であるスルメイカ漁並びにサケ漁が壊滅的な不漁であり、過去最低だった一昨年に比べ、スルメイカ漁が約四割、サケ漁が約六割と、過去に例のない大不漁となっております。

またホタテ漁は、例年並みの水揚げを確保しておりますが、コンブにつきましては、過去最低だった一昨年と比較して若干上向いたものの、平年からは程遠い状況にあり、このような水産資源の減少に加え、魚価の低迷、燃油や資材の高騰など、沿岸漁業を取り巻く環境、そして漁業者にとつて、依然として厳しい状況が続いております。

村といたしましては、主力産業である漁業の復活に向けて、獲る漁業から、つくり育てる漁業への転換を加速させるべく、事業を展開して参りますので、ご理解、ご協力をお願い致します。

そして、村の経済・雇用等に大きな打撃を与えております原子力発電所についてであります。

運転停止そして工事中断から11年が経過す

る今年、改めて、両事業者に対しては早期の再稼働と工事再開を、国及び県に対しては立地地域への支援などについて、現在村が置かれている実情と併せ、議会と一体となって強く訴えて参ります。

更に両事業者に対しては、私は村長就任以来一貫して、それぞれ再稼働と工事再開に至るまでの具体的な道筋、ロードマップを示して村民に対して公表するよう求めております。

改めて、住民の皆様が原子力との共生を実感できること、それを持続すること、そして理解を得続けるには明確な工程の公表が必要不可欠であることを、両事業者が強く認識することを望みます。

このように東通村は、少子化、人口減少、長引く漁業の不振、地域経済の低迷等々の課題が山積しており、この現状を打破するために「未来へ挑戦する東通村へ」のスローガンのもと、各種政策を展開して参ります。

村民が主役の村政運営実現に向けて「東通円卓会議」や「こども議会」等、村民の声を村政に反映させるための施策を柱に、未来をつくる「ひとつくりに」の推進、未来を牽引する「ひとつくりに」、ひとりひとりに寄り添う「くらしづくり」そして村民のいのちを守る「むらづくり」を実施するべく、施策を展開して参りますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

村民の皆様のご多幸を心より祈念申し上げます。新年に当たつてのご挨拶と致します。